

## 令和5年度 高等教育研究コンソーシアム信州 学生活動支援事業活動報告書

団体等名	信州大学地域参画プロジェクト CHANGE	
代表学生	所属大学名・学部・学年	信州大学・経法学部・3年
	氏名	鬼頭明莉
教職員責任者	所属大学名・職名・	信州大学 教職支援センター 准教授 荒井英治郎

活動名	地域参画プロジェクト（松本空港及び周辺地域、三の丸エリア、市民活動サポートセンターの活性化への取組）
実施時期	令和5年4月から令和6年3月まで
実施場所	長野県内（松本市中心）
活動内容	<p>今年度は、信州まつもと空港及びその周辺の活性化、三の丸エリアプロジェクトへの参加、松本市市民活動サポートセンターの更なる活用を軸として活動に取り組んだ。</p> <p>第一に、県民参加型予算の一事業である「信州まつもと空港における賑わいの創出・活性化」に参加した。令和5年4月から、長野県庁松本空港課の方をはじめとする関係者の方々と、空港の利点や課題についての話し合いを行った。また、話し合いを踏まえて、どのような事業を企画するのが良いかについて意見交換を行った。6月には、実際に信州まつもと空港・信州スカイパークに足を運び、信州スカイパークで体験できるツーリングを行うなど、今ある魅力を再確認することが出来た。</p> <p>第二に、松本市が策定した三の丸エリアビジョンのうちの一つである「松本国宝の架け橋プロジェクト」に参加し、鷹匠町の地域住民の方々と様々な活動を行ってきた。松本国宝の架け橋プロジェクトでは、交流拠点の「タカノバ」が鷹匠町住民と、国宝である松本城・旧開智学校を訪れた観光客双方の集いの場となることを目指し、鷹匠町・北馬場界隈の活性化を狙う。我々は、公民館などで行われる月に一度のタカノバ運営会議に参加し、昨年8月にはタカノバ建設作業にボランティアとして参加した。そして、タカノバの運用が開始した9月からは、プロジェクトのイベント部門の一員として、タカノバにおけるイベントの立案や実行に携わってきた。タカノバにて、9月にはオープニングイベント、10月には地域の子供たちに向けたハロウィンイベントを開催した。特に、ハロウィンイベントはプロジェクトに参加する地域住民の方々の協力を得ながらペーパークラフトのワークショップ、メイク体験、衣装コンテストなどの催し物を行い、近隣幼稚園・小学校に通う子供を中心とする多くの家族連れが会場を訪れ、タカノバやプロジェクトの周知ができた。</p> <p>第三に、松本市市民活動サポートセンターを利用促進のための取り組みとして、地域コミュニティの活性化事例を学ぶために、12月中旬、長野県辰野町のトビチ商店街の視察を行った。当日は、辰野町活性化のため空き家活用不動産事業等を行う一般社団法人「丸と編集舎」で長期インターンシップをされている信州大学人文学部3年生の木口屋さんが我々に商店街を案内してくださった。トビチ商店街は、シャッター街であったJR辰野駅前下辰野商店街を「老舗も新店舗も閉じたままの店舗もひっくるめて、地域としての”楽しい”をつくろう。」というコンセプトのもとに再興させるプロジェクトである。トビチ商店街のプロジェクトを主導する「丸と編集舎」は一見すると民間自治体的側面があるが、そもそもは民間団体であるというスタンスを維持しているようだ。彼らは商店街で年々増加する空き店舗をリノベーションし、移住者に空き店舗を紹介するというビジネスを行っている。視察では、リノベーションした空き家・空き店舗や移住者が紹介された物件で新規開業した店舗を十数軒見て回ったうえ、プロジェクトの一環として行われた、商店街の中の空き家を利用し美術作品を展示する「トビチ美術館」において制作を行ったアーティストに直接お話を聞くこともできた。今まで我々が目を向けてこなかった、行政が介入しない地方創生の在り方を学ぶことができ、大変有意義な視</p>

	察となった。
活動の成果と今後の課題	<p>信州まつもと空港に関しては、自分たちで考えた来年度以降の事業提案を事業提案書にまとめ、提出することができた。今年度の打ち合わせや現地視察を通して、信州まつもと空港・信州スカイパークには、すでに空港としての利用に限らず、スポーツの場として、また、憩いの場としての魅力があると感じた。そのため課題は、その魅力を十分に周知できていないという点にあると感じた。そこで、信州まつもと空港・信州スカイパークに多くの方々に来ていただけるようなイベント企画を考えた。当初、若者の利用が少ないという点が課題に挙げられていたこと、また、若者である当団体がこの事業に参加させていただいていることを踏まえ、当団体以外の学生団体も巻き込んだ、若者主体の事業を提案できた。今年度の打ち合わせ内容などを踏まえ、事業提案書という一つの形に出来たことは、今年度の活動の成果と言えるだろう。来年度も、提案した事業を形に出来るように引き続き活動に取り組んでいきたい。</p> <p>また、松本国宝の架け橋プロジェクトでの活動については、10月末に行ったハロウィンイベントで近隣幼稚園・小学校へのチラシ配布や、ポスティング、SNS上の告知など宣伝に力を入れたことで、想定よりも遥かに多くの親子に参加してもらえた。このイベントは初めて我々が主体となって進行し、企画から当日の運営まで担った。イベントの準備の段階から、プロジェクトに参加する鷹匠町の地域住民の方々や打ち合わせを何度も重ね、深い交流ができたことや当日の集客に成功したことは、今後活動行っていく上での自信にもつながり、我々にとって非常に良い経験となった。また、昨年11月に長野県総合教育センターで行われた学社連携・共同フォーラムにて発表者として登壇し、松本国宝の架け橋プロジェクトへの参加についての活動報告も行った。現在タカノバには集客面に課題がある。集客には、まずタカノバという場所の周知が必要であるため、やはり今後もイベントを継続的に開催していくべきだろう。今年度我々が携わった2つのイベントはどちらも子供向けの催し物を行ったので、今後は多世代が参加でき、地域住民を巻き込んだイベントの企画・運営にも挑戦したい。</p> <p>そして、市民活動サポートセンターの活性化のための取り組みとしての辰野町トビチ商店街視察では、商店街の活性化事例について、実際に商店街を見て回りながら、案内人の方や企画に関わるアーティストの方から詳しいお話を直接聞くことができた。民間団体による地域活性化の一つのモデルケースを学び、私たちが松本市で今後の活動に取り組むうえで大変有意義なものとなった。トビチ商店街の事例のように、民間企業が地域活性化事業を実施するのは珍しいかもしれないが、行政が地域課題へ取り組む場合よりも能動的で、自由度の高い企画が行えることが大きな強みであると感じた。また、私たちが活動の拠点とする松本市は、辰野町と比較しても市民活動サポートセンターをはじめとする公共施設や公民館の数も多く、活性化の基盤が整っているにもかかわらず、それを未だ生かしきれていないと実感した。今回の視察を通して、今後の我々の活動に際して、行政機関のみならず民間企業との関わりを持つことが重要なのではないかと新しい知見を得ることができた。</p>

※記述が枠内に収まらない場合は、枠を拡大してください。

※活動内容が分かる資料や写真等があれば、添付してください。添付書類を含む活動報告書一式は、A4判4枚以内にまとめてください。

※提出された活動報告書等一式は、各関係機関等に公表するとともに、高等教育コンソーシアム信州のHPへの掲載を予定しています。他人が写った写真等を許可なく使用しないなど、著作権や肖像権に配慮してください。

※申請内容から変更があった場合は、経緯を記入してください。



(信州まつもと空港 スカイパークでのサイクリング体験)



(タカノバハロウィンイベント① 松本市鷹匠町タカノバ)



(タカノバハロウィンイベント② 松本市鷹匠町タカノバ)



(トビチ商店街視察 長野県辰野町にて)